

(1) 地域連携部会

(2) 安全・安心部会

(3) 学校評価部会

【協議】今年度の取組（前半の報告に対する意見）及び今後の取組について

《委員からの意見①》

- ・授業力についての教職員のアンケートで、「授業力がアップした」という意見が多かったと報告があったが、何をもってそう評価したのか？印象的な評価ではなく、根拠が必要。
- ・自分が若手教職員に対して行ったアンケートでは「指導案の読み取りや指導案を書くことに不安を感じている」ということがわかった。
- ・「1人の100歩より100人の1歩」という考えはよいが、一人一人の教員の力は一律ではないので、それぞれ「どういう力が足りないか」を意識して、それぞれの目標を明確にしなければならない。

《委員からの意見②》

- ・小学部児童一人一人の「その子どもらしさ」を大切にしていると感じた。
- ・中学部・高等部の生徒が集中して授業にとりくんでいる様子が伝わってきた。
- ・授業の「めあて」がわかりやすく伝えられていた。
- ・支援学校は「働く」ということについて、とても真摯に取り組んでいると感じる。「働くのが楽しい」と思えるように育ててほしい。

《委員からの質問①》

- ・保護者アンケートについて、小学部、中学部、高等部で質問項目を同じにしているのか？それぞれの段階で、保護者が期待していることは異なっているのではないか？
- ・支援学校卒業生を雇用する企業は増えているか？「働く意欲」を育てていくことが大切。

《学校からの回答①》

- ・児童生徒の発達段階によって、保護者の意識の変化の系統性を考察するために、項目はすべての学部で統一している。質問に回答することによって低学年児童の保護者の意識づけにもなる。
- ・「働く」ということについては、小学部から係活動、当番活動、手伝い等で貢献して認められるという経験を積むことによって系統的に取り組んでいる。

《委員からの意見③》

- ・高等部で性教育の出前授業をしているのは、よい試みだと思った。人間関係や異性への関わり方の授業だったが「相手があつての自分」ということはとても大切。小学部～高等部、それぞれ発展的に取り組んでほしい。弁護士として、障害者の虐待の相談も受ける。性被害、加害について判断ができるように、社会に出て自分がコントロー

ルできるようにすることが大切。

- ・居住地校交流について「同じ世代が理解し合う」という目的は大切。相手校の先生の中には「県が推奨しているから」や「支援学校のためにやっている」という意識があるかもしれない。支援学校の先生が、目的を正しく伝えることが大切。
- ・学校自己評価アンケートについて、質問項目の並び順がバラバラなのは意図的？「授業」「生活」「環境」等まとめた方が考えが深まるのでは？
- ・アンケートの項目は、年度ごとの変化を見るために変えない方がよいのでは？
- ・小学部から「検定」に取り組むのはよいことだと思った。目標をもって受検し、評価を受け、合格すると自信につながる。

《委員からの意見④》意見③を受けて

- ・検定については、成果主義という見方もある。スキルだけを押し付けるのではなく、「本来の目的」を授業も合わせて伝えてほしい。

《委員からの意見⑤》

- ・校長先生のスライドの説明がよかった。配信して他の保護者にも伝えてほしい。
- ・先生がユニットとしてチームで授業づくりに取り組んでいるということがわかった。先生が楽しくないと、子どもも楽しい授業にはならないと思う。先生は連携して楽しい集団になってほしい。
- ・コロナで、行事が縮小されてPTA活動も含め苦戦していると思う。
- ・アンケートをタブレットで回答できるのは、とても便利。